広報 みしま

町のすがた

（1月1日現在）

人口	男	3,368人（+15）
	女	3,633人（+ 6）
	計	7,001人（+21）
世帯数		1,558（ 0）

（ ）は12月1日との比較

1 50年 第82号

発行 昭和50年1月15日
新潟県三島郡三島町役場
☎（025842）㈹2221
印刷 長岡市北越印刷㈱

初もうで

春のような暖かい日が続いた昭和五十年のすべり出し。景気の回復は、早急には望めないという。父につれられた幼い子どもたちにはもちろんそんな世の中の動きなどわかるはずもない。小さな手を合わせるその姿に、この子どもたちの将来とともに、昭和五十年代のスタートが良い年であるようにと祈らずにはおられない。

元朝、脇野町日の出神社で

2月衛生行事

月日	種目	対象者	ところ	とき
2.7	妊婦検診	妊婦	総合福祉センター	13.00〜15.00
2.21	乳児検診	生後3ヶ月から1年未満の乳児	〃	13.00〜15.00

新春趣味のつどい

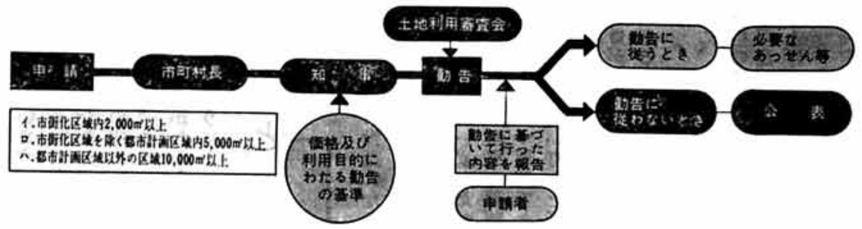
趣味の楽しさを、みんなから知っていただくための楽しい集いです。子どもさんも、おおぜいおいでください。

◎ とき　1月19日　午前9時より
◎ ところ　町福祉センター
◎ 種目　将棋、囲碁、マージャン
◎ 会費　1人 400円（昼食つき）

（計画的な利用）（地価の抑制）（遊休地活用）

3本の柱、国土利用計画法

土地の売買に関する届出のしくみ



十二月二十四日から「国土利用計画法」が施行されました。

最近の十数年間、経済のめざましい発展は、土地の利用、地価におおきな混乱をもたらしました。大都市への人口の集中が住宅難、公害など、いわゆる都市問題を生み、一方で人口流出による農山村の過疎、農業環境の悪化など地域社会の営みをむずかしい現実に追い込んでしまったのです。

そこで、都市問題や過疎問題を生み出すかたよった国土の利用ではなく、都市も農山漁村も豊かで住みよい生活環境を整えることによって、かたよらない国土の発展をめざして、①計画的な秩序ある土地の利用、②利用の目的・公正な土地取り引きを確保するための規制、③遊んでいる土地の有効な活用の三つを柱として、この法律が制定されたのです。

土地の売買に届出が必要

法律の施行にともなって、定められた広さ以上の土地の売買は、予定価格、利用目的などを書いて市町村長を通じて、県知事あて届出書を出していただかなければなりません。

届け出が必要な面積とは、市街化区域では二千平方㍍、その他の都市計画区域では五千平方㍍、都市計画区域外では一万平方㍍以上で利用の目的、地価などが県の段階で表のようにしてチェックされるしくみとなっております。

また、前述の規模以上の土地を単に値上り期待で遊ばせているような場合には、早急に利用の計画をたてるよう勧告したり、場合によっては買い上げて公共の福祉のため有効に活用するなどの方法もとられるようになっているとともに届け出や申請を守ってもらうための罰則も設けられております。

この法律に関する詳しいことは次号でお知らせする予定ですが、届出書のこと、法律に関する問い合わせは、総務課企画係におたずねください。

国民年金のはなし

二十歳になると、いろいろな権利が与えられるとともに義務も課せられます。国民年金に加入することもその義務のひとつです。若い人にとって老後は、はるか遠い先のことのように思えるでしょうが、両親や、おとしよりの老後や扶養のことを考えていただければ年金も身近なものとして理解いただけるのではないでしょうか。

会社や官庁などに勤めて厚生年金などの被用者年金制度に加入している人や、その制度から年金を受けることのできる人、その人の配偶者、昼間部の学生を除いた二十歳から五十九歳までの人はすべてこの国民年金に加入していただかなければなりません。

二十歳になってまだ加入手続きの済んでいない人は、すぐ手続きをされるようお願いいたします。

年金額は昨年の一月に引き上げられ、九月には物価の上昇に応じてさらに増額されました。その結果、受けとる年金額は一年前に比べて二・九倍から三・七倍もの大幅な引き上げとなりました。

その財源は加入者の保険料や国庫負担、積み立てによる利子などでまかなわれています。

したがって年金額が引き上げられれば費用の負担もそれに応じて増額されます。

しかし、保険料は、昨年の一月に一か月につき五百五十円が九百円に、今年の一月からさらに千百円に引き上げられましたが、保険料の増額が加入者にとって急に重い負担とならないよう段階的に引き上げるしくみとなっています。

国民年金のことはいつでも気軽に係におたずねください。

おわびと訂正

先月号民生委員の紹介記事で、西山太栄治さんと平原慶子さんの担当地域名が入れ違いになっておりました。

関係者のみなさんにたいへんご迷惑をおかけしましたことをおわび訂正させていただきます。

新区長さんです

鳥越	小坂徳次郎	新保	稲田惣一郎	上条	田中十四夫
七日市	未定	大野	井開仁	逆谷	小熊基弘
上岩井	佐藤才一郎	下河根川	渡辺幸左衛門	気比宮	山田芳助
吉崎	丸山由之助	瓜生	倉重忠衛門	藤川	原喜伝司
脇野町	河内鉄司	蓮花寺	小川敏栄	宮沢	中野義雄
中条	片桐與平太	中永	難波確司		（敬称略）

新年あけまして

おめでとうございます

町長　河内弘二

雪の少ない新年を迎えるにあたりまして、皆様がご健康で越年されましたことを心からお祝い申し上げます。

昨年は、地方財政の抑制と、経済不安定のなかで新年を迎えましたが皆様の惜しみなきご協力とご熱意とによって諸事業を全うすることができ、なかでも、町民待望の三島中学校建築も着工することができ、すでに六十%の進ちょくとなりましたことおよろこび申し上げるとともに衷心より感謝いたしております。

さて、五十年は驚異的経済成長の後の経済不安定と、政局の不安定という世情のなかではありますが、三島町町制二十周年を迎える年でもありまして、二十年間の進歩と発展を象徴する年であるとともにそれを礎として躍進する年であります。「公共事業」、「生活関連事業」の推進は申すにおよばず、将来の三島町をになう青少年育成の場である三島中学校の完工等に邁進するとともに、常に皆様が健康で明るい生活ができる環境づくりに努力いたすことを念頭に町政を担当してゆく所存でございます。

おわりに、町民各位のご健康とご多幸をお祈りし、合わせてますの町勢発展のため、限りないご支援とご協力をお願い申し上げます。

議会議長　元井藤作

あけましておめでとうございます。省みますれば、四十九年はオイルショックの後、世界的に経済不況が商まり総需要抑制からくる不況、あたかも狂乱物価もてつだって、政局の不安定とまことに好ましからぬ年をおくりました。

この中にあって町としては三割自治でなく一割五分自治というまことに零細町村でありますが、町当局はじめ、町民各位のご理解とご協力により三島中学校の四階建鉄筋コンクリートの工事も六割以上の進ちょく率をみることができ、また生活関連にともなう公共事業および町単独事業が予算に対して百%近い進ちょくを年前にみることができましたことはまことにご同慶の至りと存じます。

五十年は、中学校の内装工事に入り七月下旬には完成の予定でありますが、五十年は、たいへんめでたいことが重なり、合併二十周年、中学校の竣工、協野町小学校の百年祭、また待望のガス事業も予定された三か年計画を二年に短縮して第一期計画区域を完了されまして皆さんとともに喜ばしい次第であります。

公共および町単独の生活環境整備事業、住民福祉を考えながら町当局の発案に大きく期待をかけ、議会は議会なりに活動を続けて明るく住み良い町づくりに是々非々を正しながら議員一同力を合わせて専心努力する心算であります。

なにとぞ町民各位のいっそうの督励とご指導をお願い申し上げます。

新春随想＊二十歳の自覚

西　清次さん
（脇野町・33才）

気づかない欠点

小林悦子

▽…　ことし一月十五日、町で成人式を迎えた人は百五十五人でした。昭和二十九年から昭和三十年、「神武景気」といわれ、日本中が活況に湧く、好景気時代の幕あけとなったこの時代に生まれた現代っ子も、はや満二十才、戦争体験のない親を両親に持つ人も多いこと…△

▽…　でしょう。一方、明治、大正、昭和の三代を生き抜き、激しく変化する世情におどろきながらも、元気に暮しておられるおとしよりなど、無作為にお願いした町内十数名のかたがたについて掲載させていただきました。

▽…　ら最近感じておられること、成人としての決意などをお寄せいただきまして…△

▽…　九名のかたから密稿いただきましたが紙面の関係で五名のかたがたについて掲載させていただくことになりました。ご協力くださったみなさんに厚くお礼申し上げます。

▽…　いただくことになりました。ご協力くださったみなさんに厚くお礼申し上げます。

くあるのではないでしょうか。

先日、ある人からこんなお話しを聞きました。某店に入り店の店長さんとお話しをしていたそうです。そこに用があったらしくウェートレスがその場に来てこう言ったそうです。「あの！、いいですか」、店長「ああ、いいよ」「〇〇が来たんだけどどうするんだね」、店長「……」。

この時のウェートレスの態度が女性としてあまりにも好感が持てなかったので、店長にどうして注意しないのかと聞いたら、今の若い者はひとこと何かいうとすぐに〝やめさせてもらいます〟というので、きついことは言えないのです、といわれたそうです。

この話を聞いたとき、「現代の若い者は……」と年輩者のいう言葉を思い出しました。

目上の人に対して、親しみがあってなれなれしく、自分ではさほど悪いことをしていないのにと思っても時と場合によっては、あとで考えるとそれが非常に見苦しいものに見えることを私は何回となく経験したことがあります。

そのつど、まだあの人は若いんだからと言うことで少しくらいのことは大目に見てくださるので、それで良いものだと思いこんでしまい、自分の行動について反省することを忘れているのが現実ではないでしょうか。

自分さえ良ければというのが今の若い人の考えかただとも聞きました。特に年長者に対しての思いやりが欠けているのに気づく時、どうしてこうしてやらなかったのかと思ったりもするものです。

こんなことをいう私でさえもわからない所で見落している欠点が多いものですが、成人、社会人のひとりとして認めてもらった以上自分なりに努力を惜しんではならないと思います。

山後由香里さん
（蓮花寺・12才）

柳　悦雄さん
（吉崎・20才）

名古屋　熊次郎さん
（上条・75才）

小林悦子さん
（大野・20才）

私のたから

山後由香里

私の家には、ネコが二ひきいます。四年前、私が脇野町小学校へてんこうしてきたとき、いっしょに津川からもらってきたのです。

親ネコは、チコといいます。よその人が、たばこをかいにきて、「まあ、このネコは白か黒かわからないようだね。」とわらいます。

チコは年をとったのか、さむがっていつもかまどの中にはいるから黒くなるのです。ネズミはどこからとってくるのかわからないけれども、毎日のようにとってきます。

こネコのコロは、チコにくらべると、若いせいかとってもおしゃれで、ときどきかがみのまえにすわって顔をみがきます。ときにはアイロンをかがみとまちがえ、はなのあたまをやいたこともあるようなおしゃれなネコです。私がでかける時には、どこからかはしってきてみおくりをしてくれます。私が見えなくなると、コロも母についてスミ小屋へかよっていきます。母がスミたきをしているあいだコロは、山にのぼり、野うさぎをさがし、一日一ぴきは、かならずといってもよいほどとってきます。

私は土曜日の午後とか日曜日には、母の手つだいをします。そんな時コロは、自分のからだとおなじような大きさの野うさぎをとってきます。コロにくいころされた野うさぎをみるとかわいそうで私もなきたくなります。

でも野うさぎは、お母さんたちがせっかくうえた杉の子やまめやいもなどをくいあらすわるいやつです。みんなのためにやくだつコロはりっぱだと思います。

チコとコロは私のたからです。

協力と町の発展

西　清次

私は、当三島町にお世話になりまして早や十数年経過しました。

当初三島町は環境にも恵まれ、住みよい町だと思っていましたがそのうち町の惰勢とか町民の理想等々自分なりに少しずつ理解できるにしたがって住み難い町へと転換してまいりました。また、数年来、町の人口が減少し現在なお減少の傾向にあるかのように思われます。

その原因に、他の市町村に比較して土地価格の高騰があげられると思います。どうしてこんなにも価格が引き上げられたのでしょうか。

昔からの封建的な観念が今なお根強く残っていて、施設誘致等の協力呼びかけには応じないのではなかろうか。

ちなみに自分さえ良ければ他人はどうでも良いという自分本位の利己主義的な思想が多分にあるのではないだろうか。そんなこと言っても昨今のインフレと不況である自由放任主義の下においては通用しないと異論があるかも知れませんが、人間という存在は、本来弱いものであり、世の中では誰かの世話になりながら、誰かの世話をしているという相互扶助の関係にあるわけであります。

そんなとき、自分を助けてくれた人、保護してくださった人に対して自然にありがたいと感謝の気持が湧き、親睦感が深まってまいります。公民館でもさかんに叫ばれていますように、お互いの親睦融和ということをモットーとして理解され協力し合って行かなければ町の発展は望めないのではないでしょうか。

三島町も今年三月末で満二十才の誕生日を迎えるということでありますが、お互いに協力し合って住みよい町づくりに励まれ、住みよい郷土になりますよう、町当局のたゆまないご努力をお願いします。

赤い柿とひ孫

名古屋　熊次郎

明治は遠くになりにけり。おれが生まれたのは明治三十二年、老妻は明治三十四年だ。

日清戦争の四年後、日露戦争の六年前、まあ戦争の中に生まれたものだ。それから戦争また戦争で、今やっと平和らしい時代とはなったが、またまた戦争のまねごと、飛行機の乗っ取り、かよわい人々の人質、婦女の殺人、自分の子どもを殺したり、すてたり、おれは戦争には再三出たが、平和の中の殺人事件には身内はもちろん身近の人にもあっていない。まことに幸福そのものである。

おれの子どもは六人、みな元気で働いている。大正生まれの長男夫婦も元気で働いている。その長男夫婦の子どもも昭和生まれでみな元気で昨年の秋お嫁様ももらい幸福に暮らしている。

明治、大正、昭和夫婦と三夫婦そろって同居している。おれもまったく幸福だ。

新聞を見れば幸福がどうの、やれ養老院がどうのと書いてあるがおれには関係のないように思っているが、どうしておとなになったかを、いま少し考え直して見る必要があるのではないだろうか。

お互いに考え合えば戦争に代わるような平和殺人、交通戦争等はおのずと少なくなる。まあ、老人も若人もお互いに話し合い、考え合って本当の平和を両手に持とうではないか。

おれの親の植えてくれた赤い柿をもいできて孫夫婦の子どもにやったり、背中におぶって天気の良いときはぶらりと外に出て秋晴れの青色をながめていると、むしょうに涙が出るときもある。うれし涙だろうか、悲しみの涙だろうか。

それは今までおれの書いたことで想像がつくだろう。

出会いとつながり

柳　悦雄

四月生まれなので、もういくらかおとなの気分を味わっているのですが、まだあまり実感のない日々でした。でも新年を迎え、成人式を目前にするとやっとおとなの仲間入りできるんだなあとうれしさでいっぱいです。反面不安な気持もします。

いままで、両親やまわりのかたがたに甘え、おんぶされてきた私がはたして一人前の成人としてやって行けるのだろうか。社会へ出て一年九か月余りですが、そのなかで社会っていかにきびしいか、その中で生活するおとながいかに大変であるか知りました。

そして今、私は「責任」、「人との出会い・つながり」ということがとても大切だと思います。

今日まで自由にやりたいことを好きなようにしてきました。でも学生、未成年ということで不自由を感じず、二十才になれば自分で思ったことが自由にできると考えていたのです。実際、なるほど自由になんでもできます。両親も以前のようにロやかましくありません。それがかえってこわいような気持です。

そして人間はいくら頑張っても一人では生きてゆけない。

何につけても相手のあることで助けられ、助け合いながら生きて行くものだと思います。人の出会い・つながりはとても大切だと思います。

今、直接自分にかかわりがなくとも五年後、十年後いつか自分にとって大切な人になるものだと思います。そして、いろいろな人と接することで、知識、視野、人間性が広がると思います。

出会い、つながりを大切に現在私のまわりのかたがた、そしてこれから先、出会うかたがたと接してゆきたいと考えています。